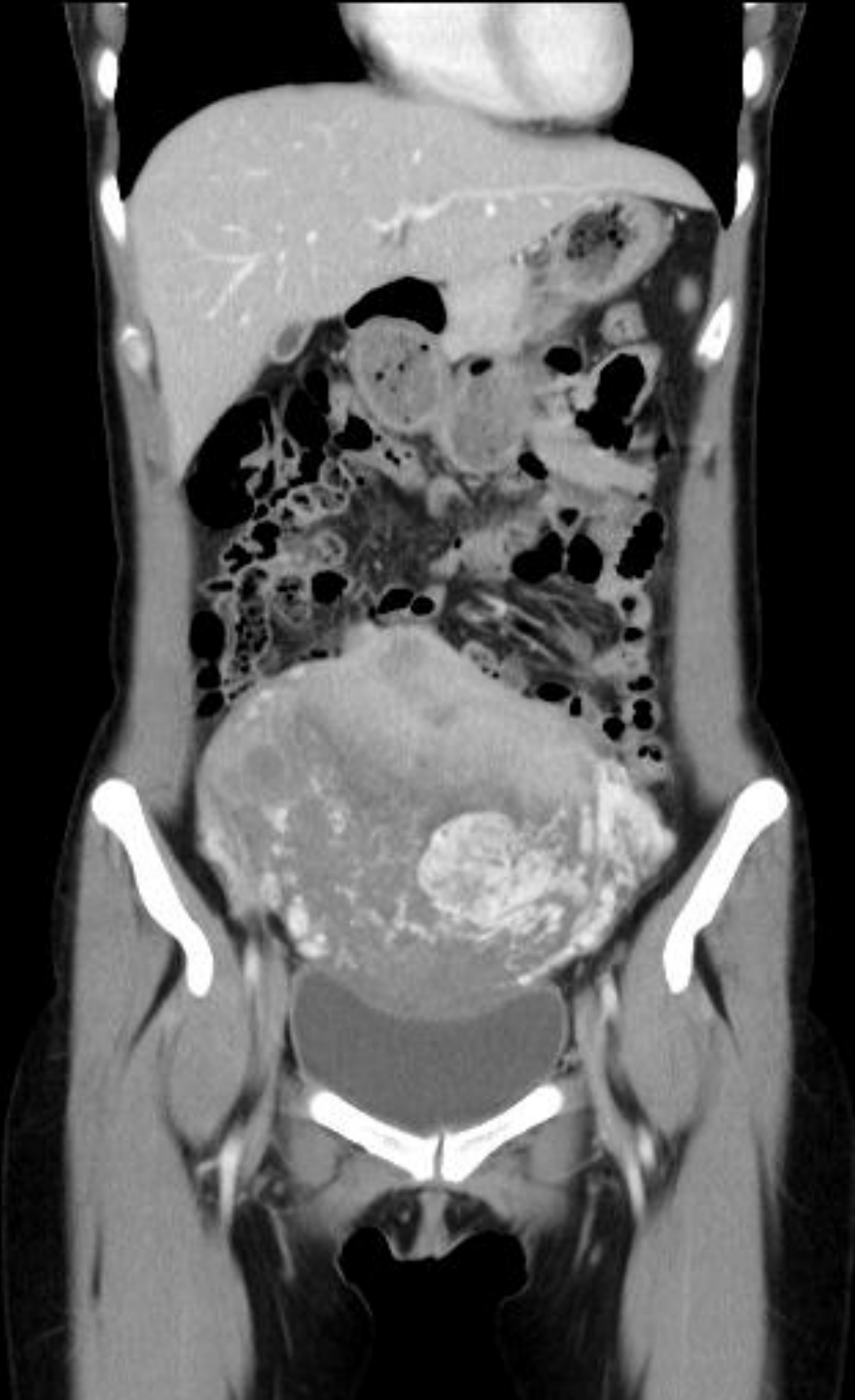
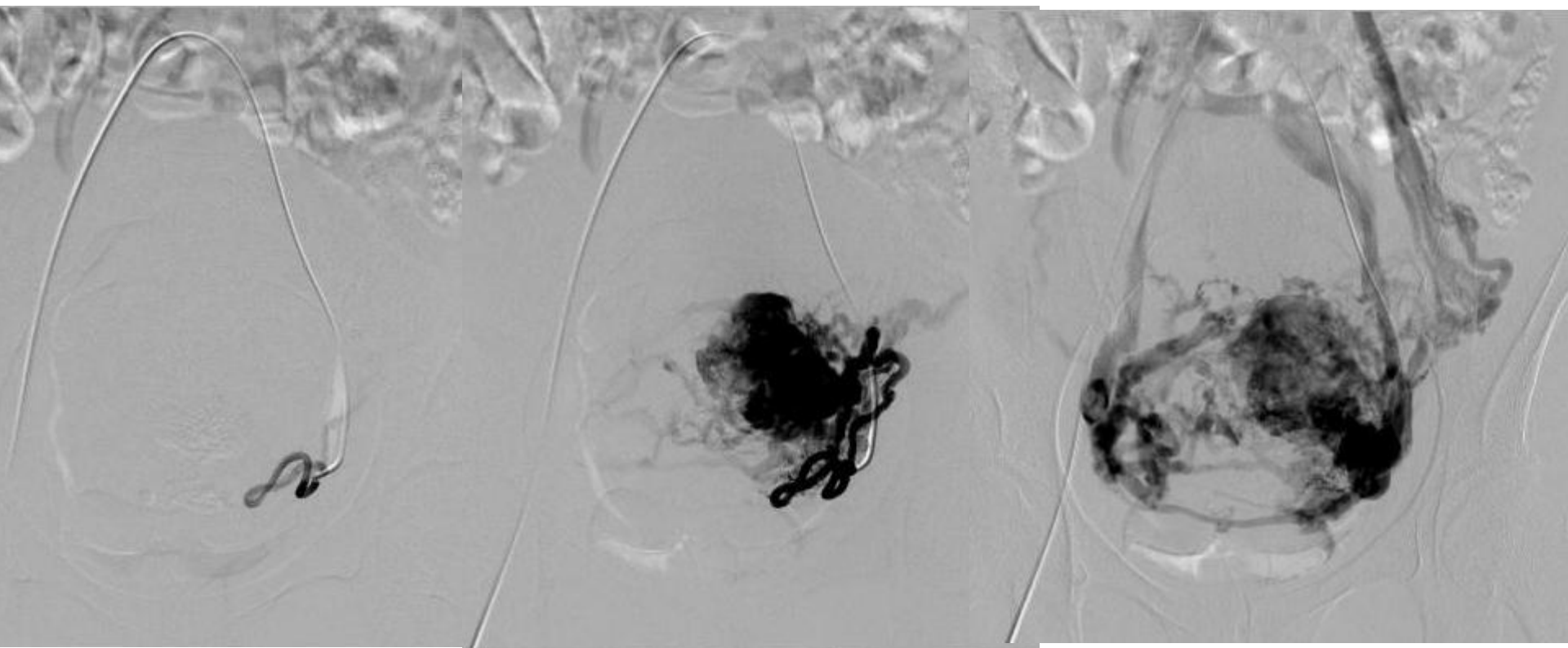


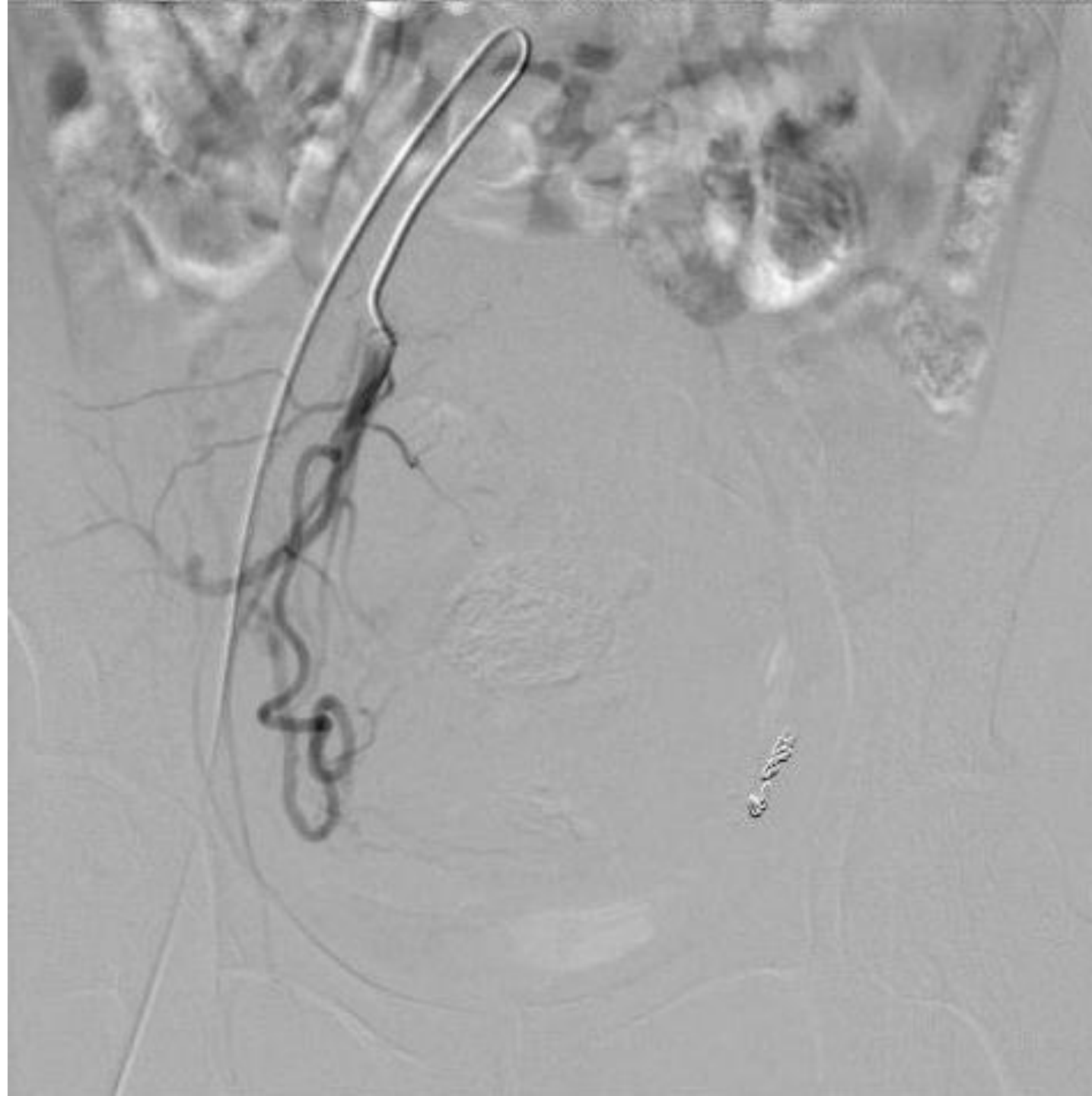
遺残胎盤による子宮出血 40F

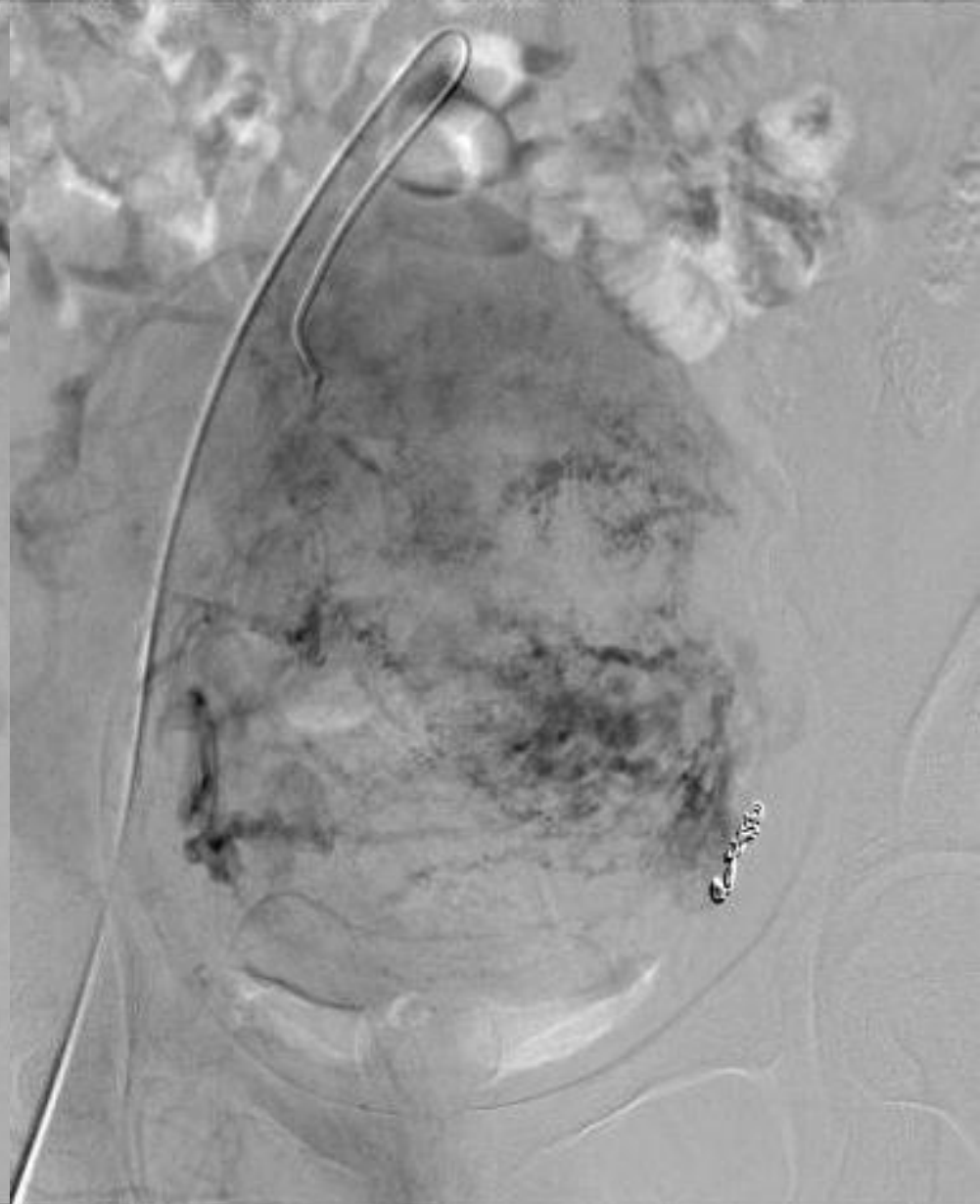
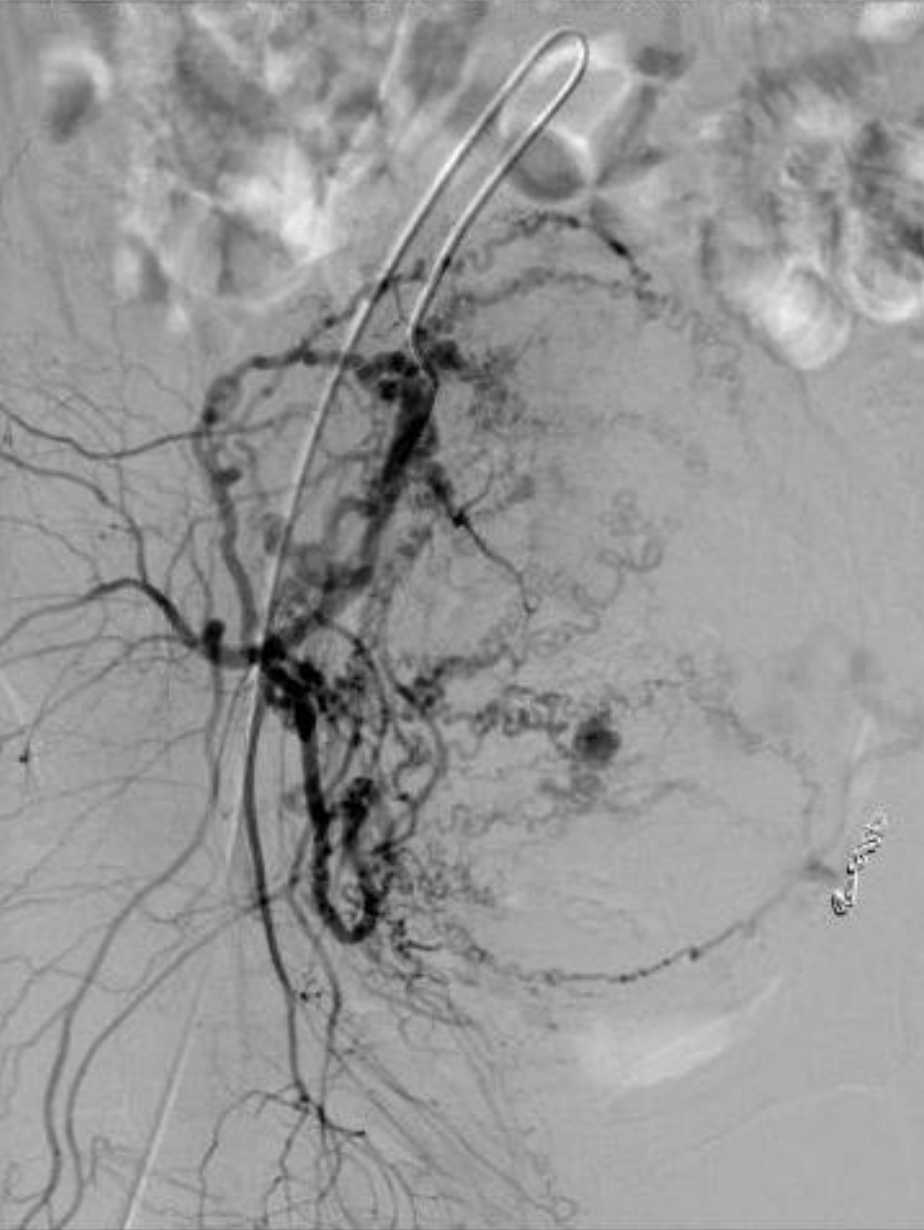
自然分娩5日目

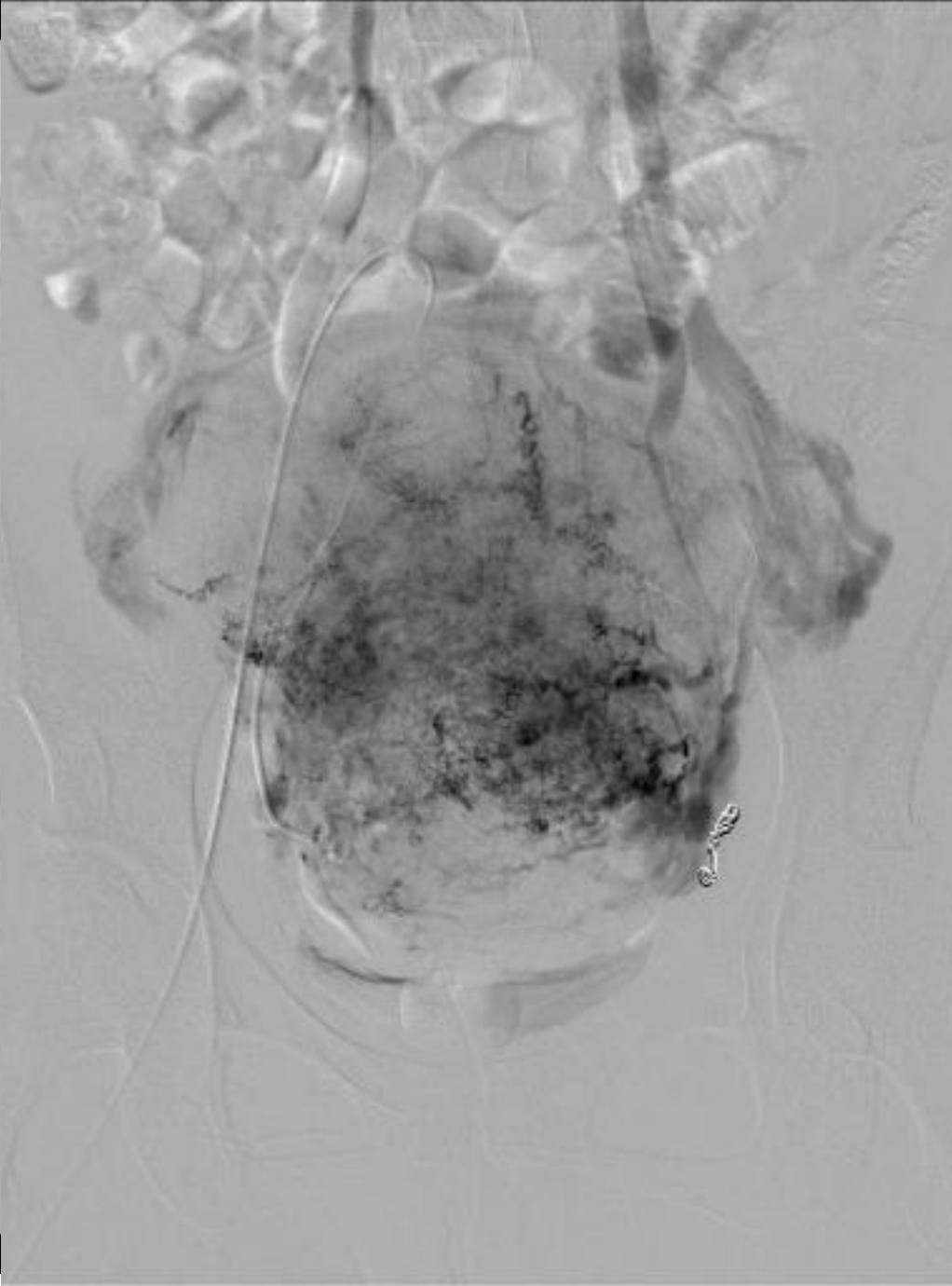
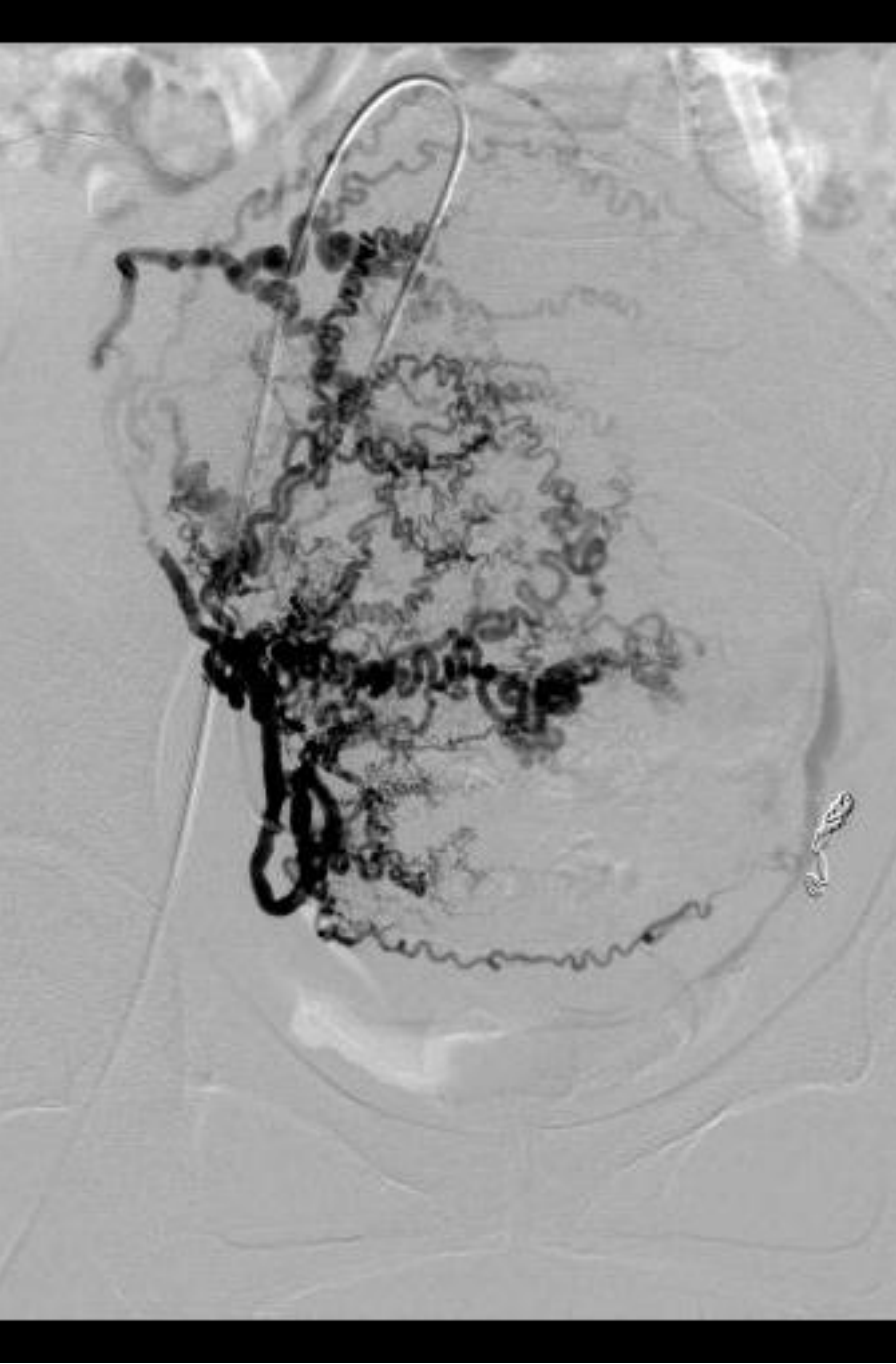




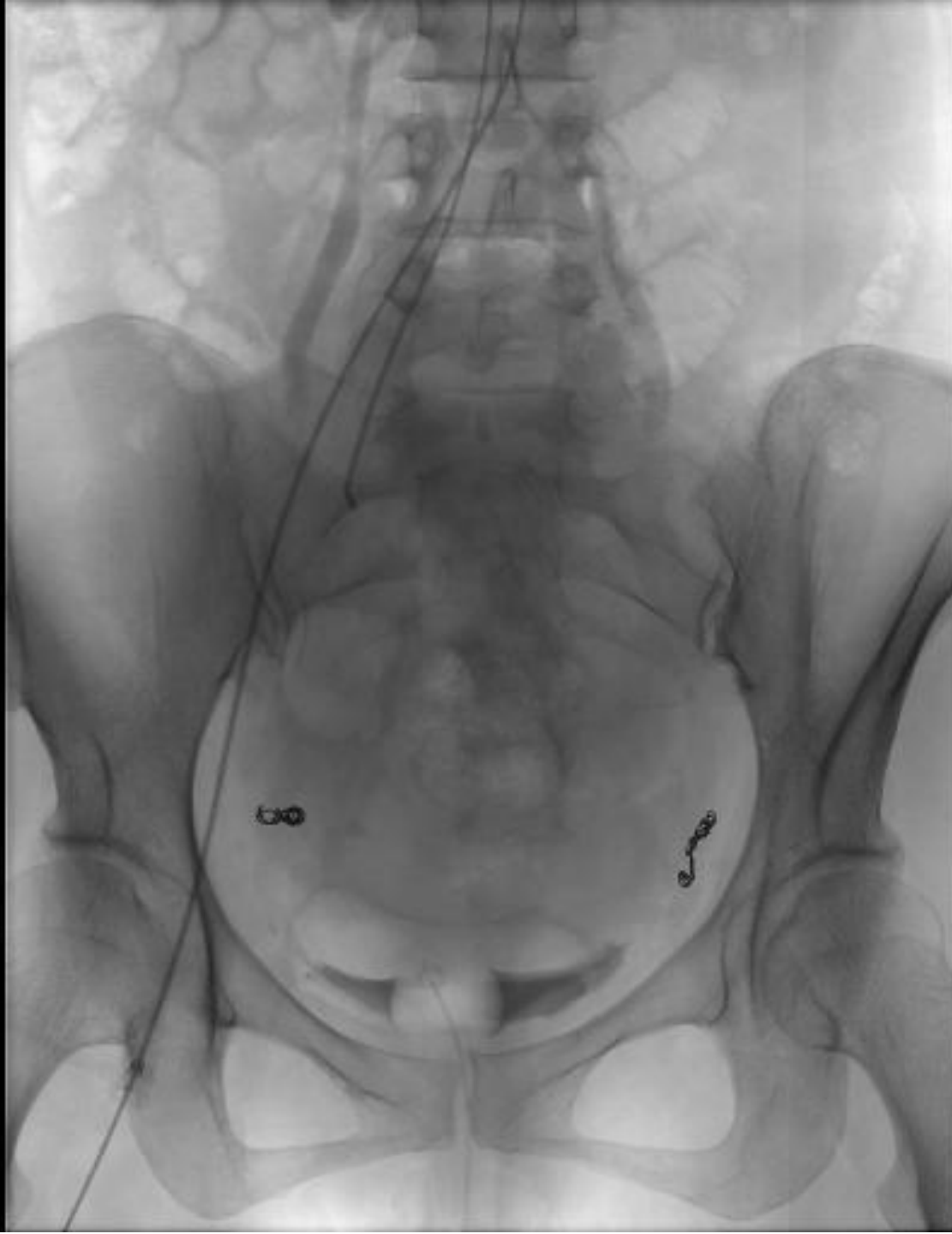
- 右大腿動脈より左子宮動脈にラジフォーカスガイドワイヤーを用いて、C2カテーテルを誘導。
- 造影を行うと、遺残胎盤がすぐ描出され、怒張した血管からすぐ大循環系へのシャントが認められた。両側卵巣静脈及び左腸骨静脈も描出された。
- このためゼラチンスポンジ細片の使用は不可であり、3mm径/6mm長ボルテックスコイル、次に3mm/20mmプラチナコイル、次に4mm/30mmのプラチナコイル、再度3mm/40mmのプラチナコイルを塞栓。





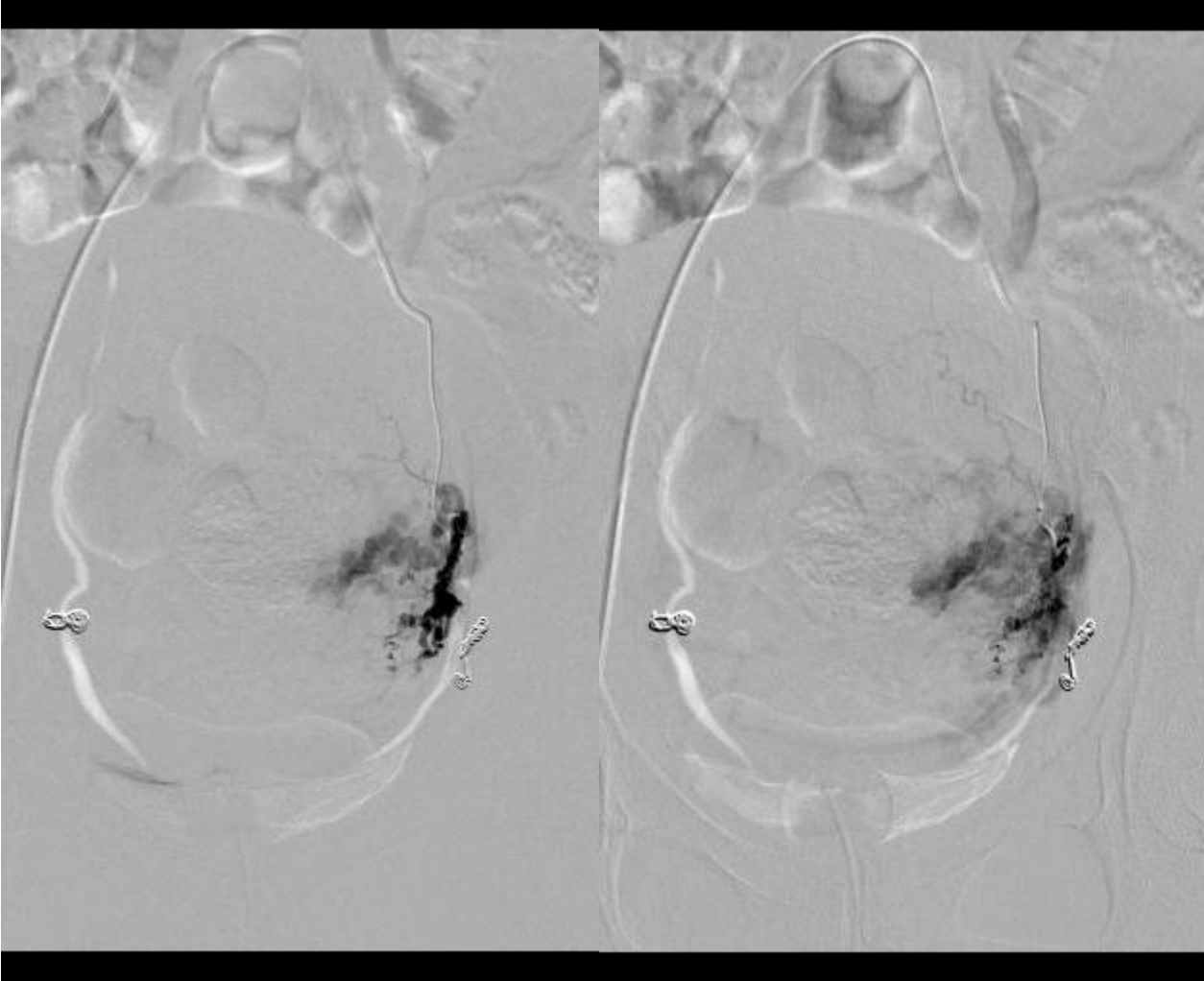


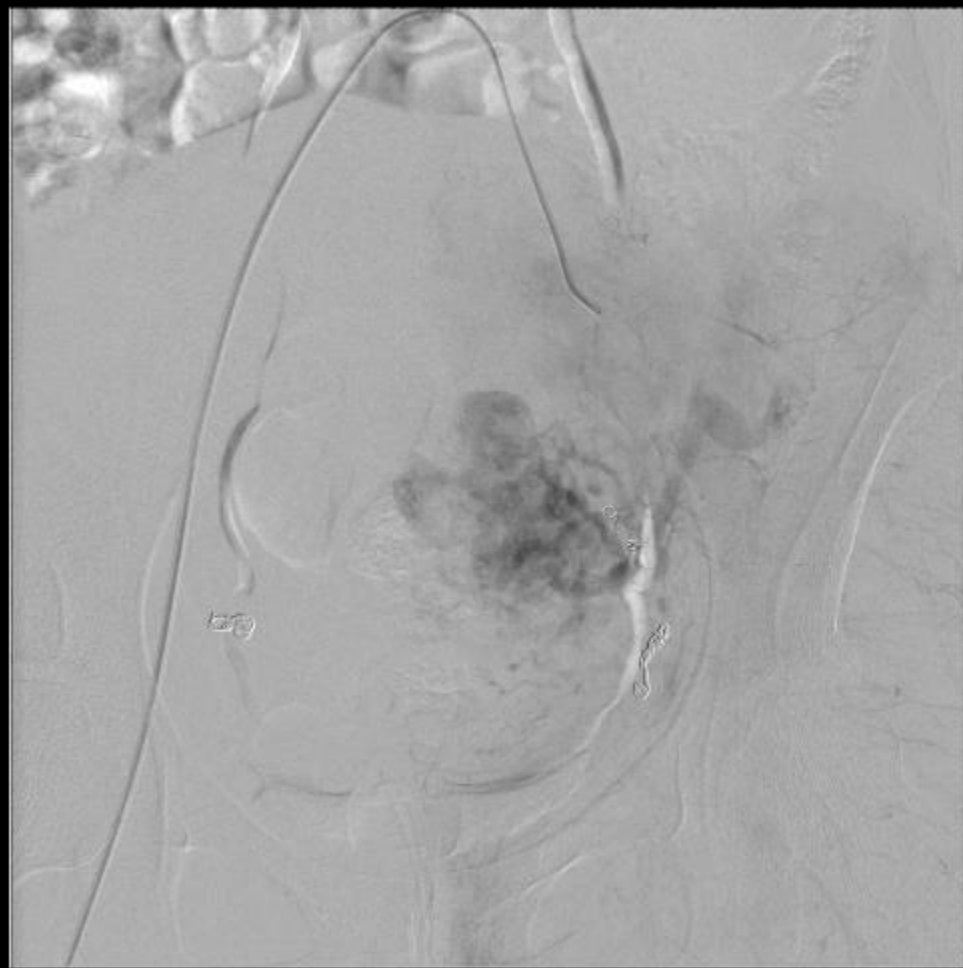
- 腹部大動脈でループを形成させ、右子宮動脈を選択。
- 造影を行い、遺残胎盤及びそれを通じて大静脈へのシャントを確認。
- やはりゼラチンスポンジ使用は不可。
- このため3mm/6mmボルテックスコイル、3mm/40mmプラチナコイル、次に4mm/30mmプラチナコイルを塞栓。
- 右子宮動脈塞栓後の内腸骨動脈造影では、子宮動脈系は全く造影されず。

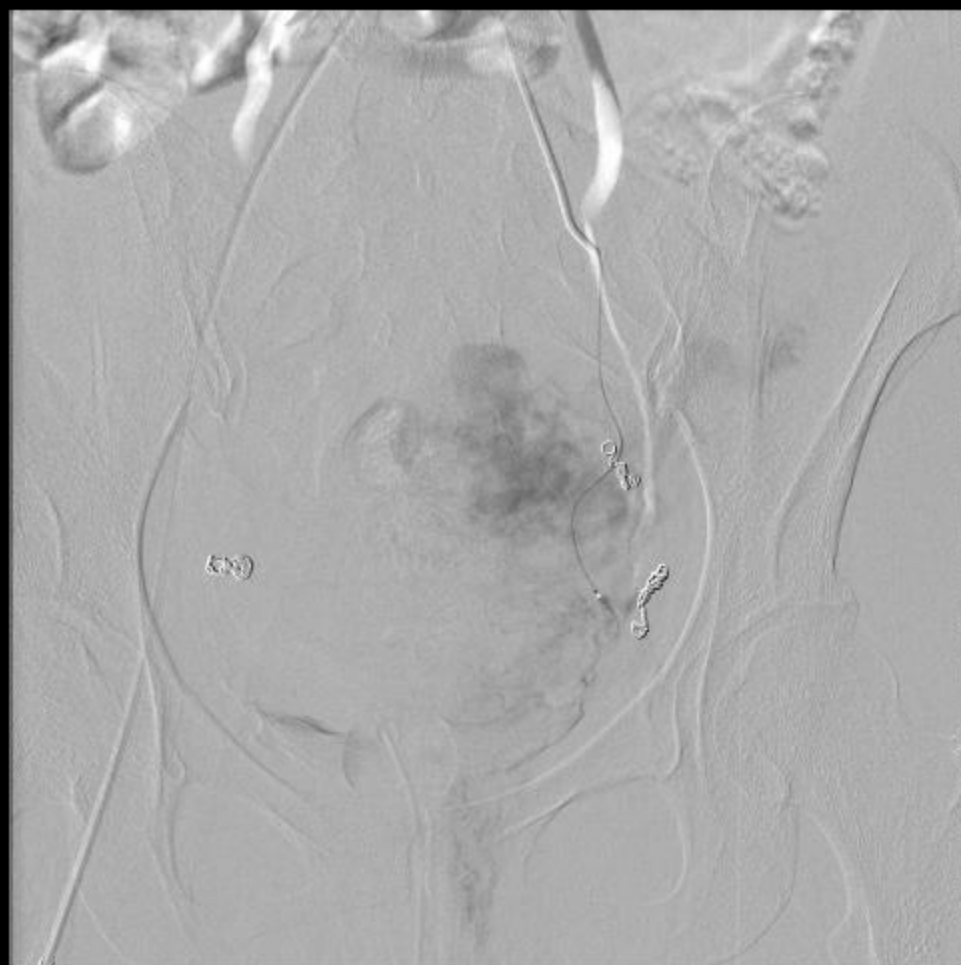
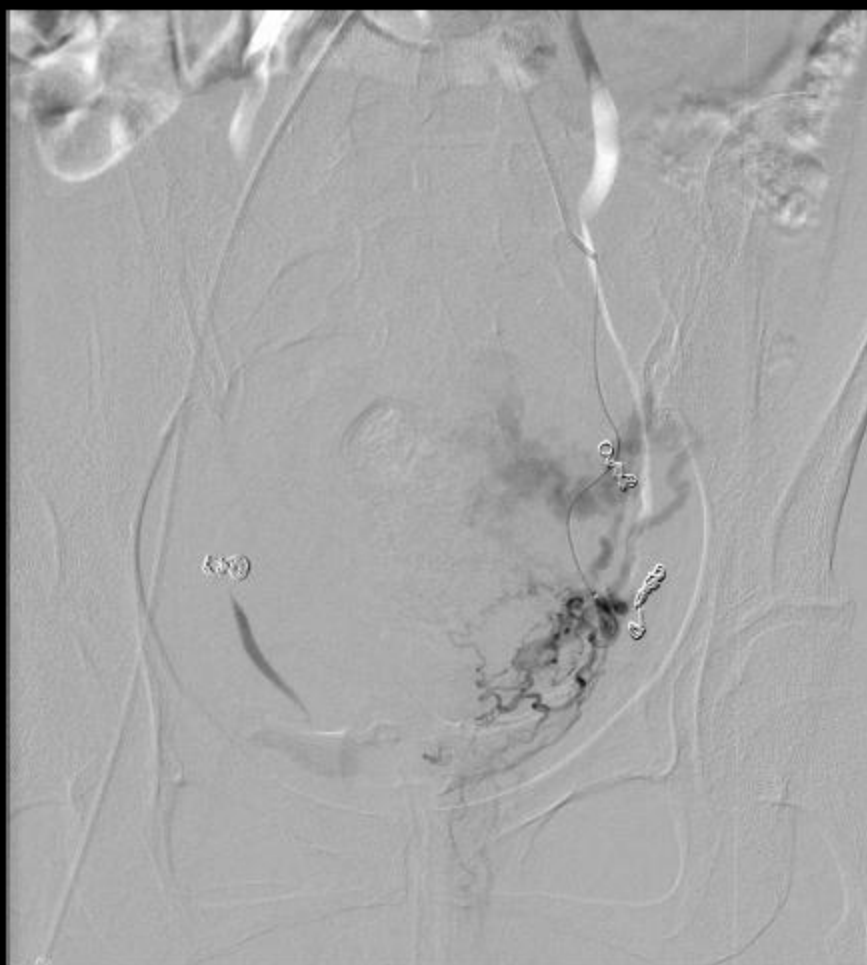


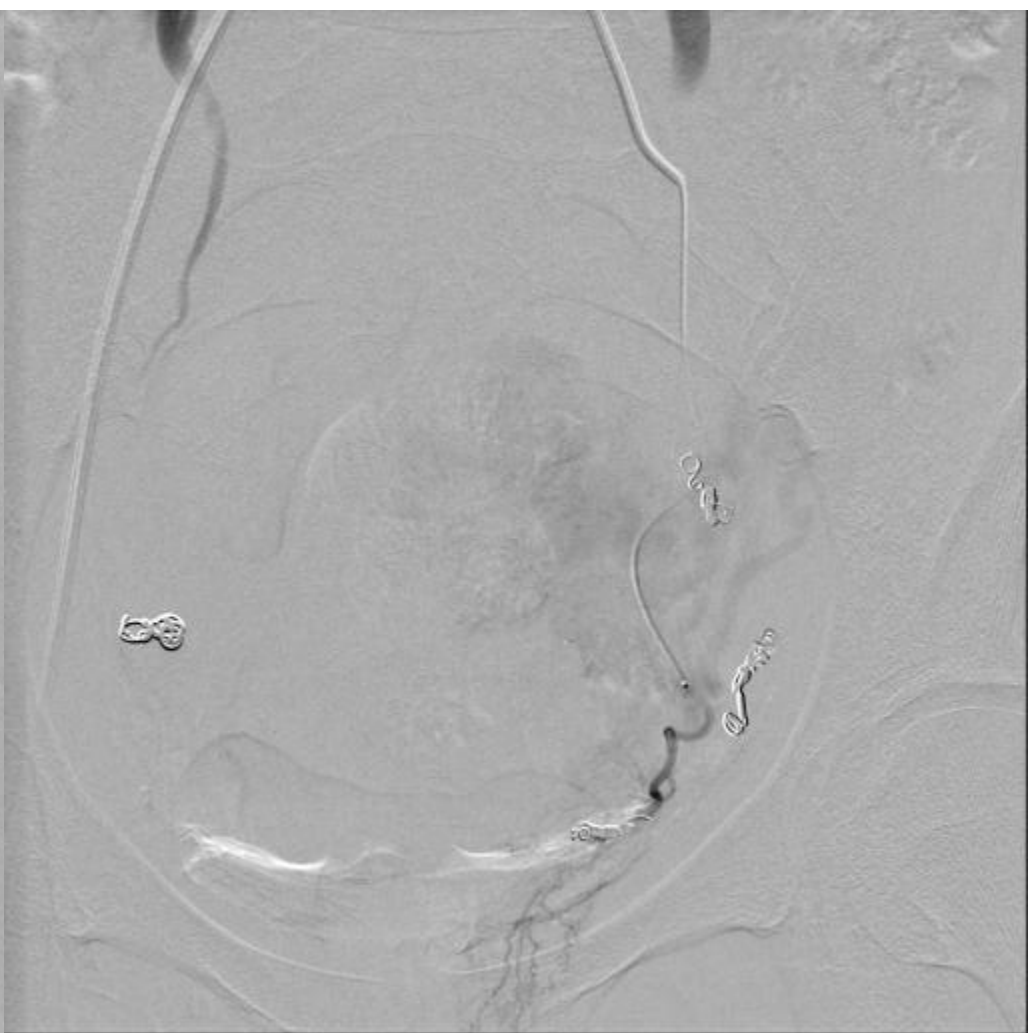
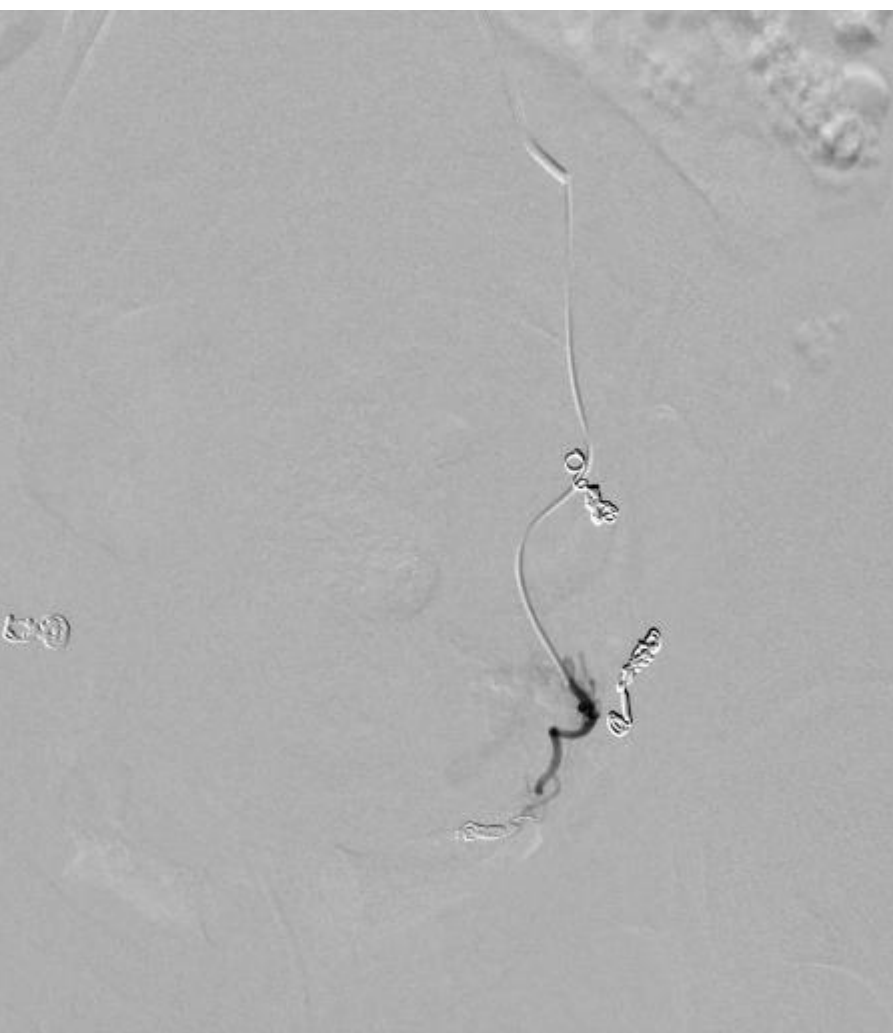






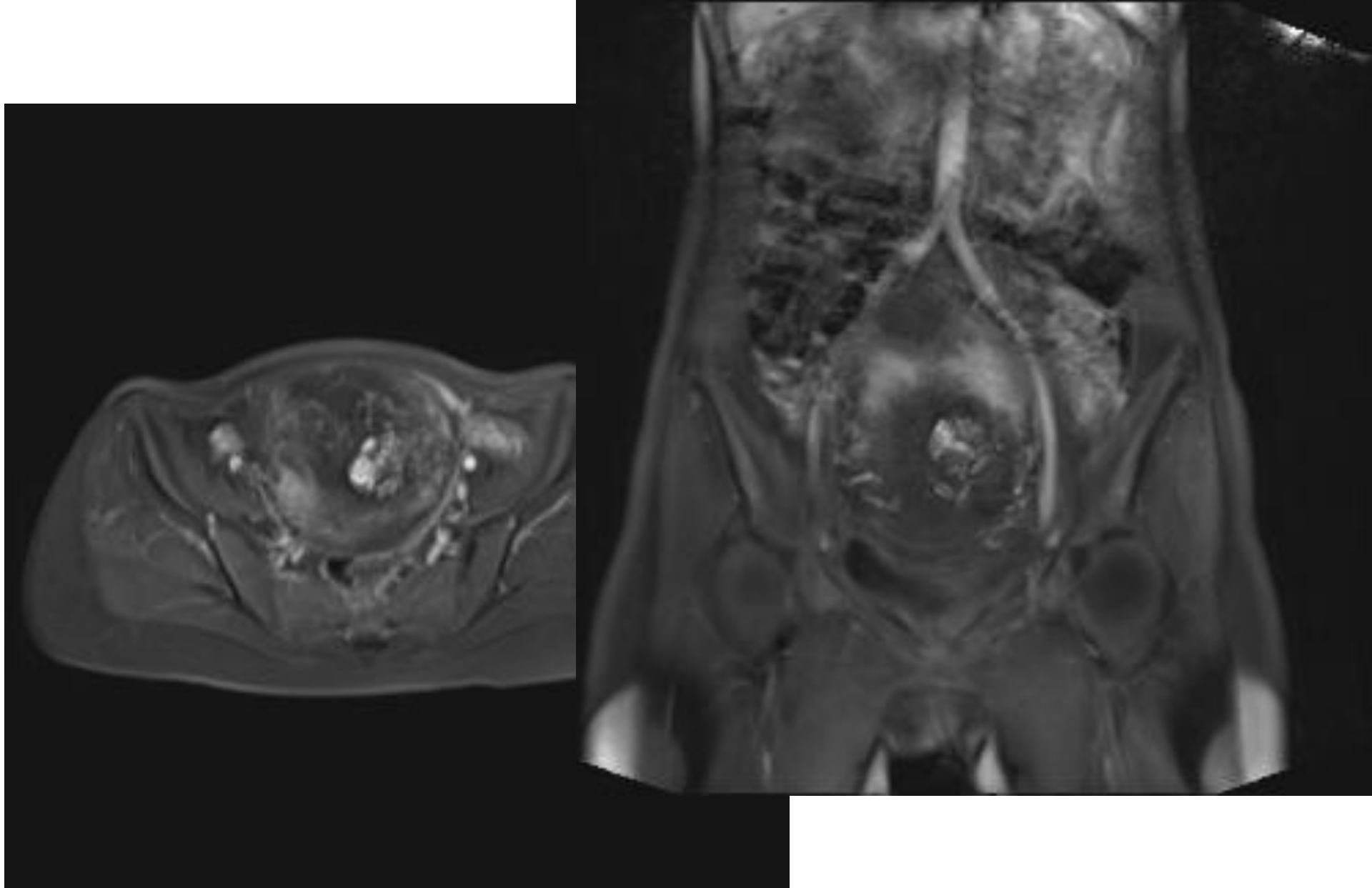








- 再度左内腸骨動脈造影を行うと、左子宮動脈以外の分枝から側副路の形成が認められた。このためマイクロカテーテルシステムを用い、動脈を選択。
- 2mm/30mmマイクロボルトックスコイル及び2mm/40cmIDCコイル、再度2mm/30mmボルトックスコイルを挿入。さらに2mm径のIDCコイルを追加。
- 次に膀胱動脈からの側副路が認められたため、2mm/30mmボルトックスコイル、3mm/60mm IDCコイル、2mm/30mmボルトックスコイルを塞栓。
- その後の造影では手前寄りの側副路が認められたため、ゼラチンスポンジ細片をもって塞栓を行った。
- さらに左内腸骨動脈造影を行うと、閉鎖動脈系から側副路の形成が認められたため、親カテーテルをラジフォーカスガイドワイヤーを用いて、閉鎖動脈まで誘導。
- ゼラチンスポンジ細片をもって塞栓を行った。
- 塞栓後、子宮への血流は途絶していたことを確認、手技を終了。



血流残存→ATH